

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京芸術大学

1 全体評価

東京芸術大学は、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、教育研究と社会連携活動の推進を通じて我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命としている。第3期中期目標期間においては、世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、国際舞台で活躍できる卓越した芸術家・研究者を育成することや、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学の特色を活かしたブランディング戦略と教育研究成果の情報発信や東京芸術大学COI拠点研究成果「クローン文化財」の活用に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 国際共同カリキュラム・コースワークとして、大学院美術研究科では、パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学及びシカゴ美術館附属美術大学の各大学と「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施するとともに、大学院映像研究科アニメーション専攻では、韓国芸術総合学校及び中国伝媒大学との間で国際共同制作・短期集中講座・中長期の交換留学からなる国際共同カリキュラムを構築・実施するなど、5つのコースワークを整備している。（ユニット「海外一線級アーティストユニット誘致を基軸とした「グローバル展開戦略」に関する取組）
- 入学志願者への負担軽減を図るため、紙媒体による出願を廃止し、インターネットを利用したウェブサイト出願を導入しており、外国人留学生の出願が学士課程で対前年度10名増（38.5%増）、修士課程で52名増（31.3%）となっている。（ユニット「海外一線級アーティストユニット誘致を基軸とした「グローバル展開戦略」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 女性研究者の研究力向上のための研究支援プログラムと環境整備

女性研究者の研究力向上を図るための研究支援プログラムとして、女性研究者が自らの研究分野やキャリア形成を題材として立案・運営する研究企画について学内公募を行い、特に優れたプロジェクト提案に対して助成を行う「ダイバーシティパイロットプログラム」を実施し、平成28年度に実施した第1弾公募での採択プロジェクト11件に加え、平成29年7月の第2弾公募により9件を採択し、これまでに計20件の助成を行っている。また、「教育研究支援員制度」を5名に拡充したほか、「ベビーシッター派遣事業」を導入するなど、女性研究者の働きやすい環境整備に努めており、女性教員比率も2.4%上昇している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 大学の特色を活かしたブランディング戦略と教育研究成果の情報発信

創立130周年を契機に、大学が今後歩むべき10年の指針として、「東京芸術大学 NEXT 10 Vision」を策定するとともに、ビジョンの推進のため新たな大学呼称、ブランドマーク等を策定し、美術・音楽界において第一線で活躍する大学の卒業生等に「アンバサダー」として大学や周年事業の広報活動を依頼するなど、ブランディング戦略に取り組んでいる。また、世界を目指す若手音楽家のキャリア支援システムとして、(株)ワーナーミュージック・ジャパンと連携して「藝大レーベル」を設立し、在学中における演奏音源のデジタル配信を開始し、加えて、音楽分野における教育研究成果の発信及び音楽文化の更なる普及を目的として、株式会社インターネットイニシアティブと提携し、デジタルアーカイブ化した教員・学生等による大学での演奏会の音源・映像を無料オンデマンド配信するなど、企業等とのコラボレーションによる教育研究成果の発信を積極的に実施している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等及び安全管理 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 東京芸術大学COI拠点研究成果「クローン文化財」の活用

大学の特許を活用して制作した「クローン文化財」により構成される世界初の展覧会「シルクロード特別企画展 素心伝心」を開催し、多数の来場者を得ている。また、NICAS（オランダ芸術科学保存協会）との協定に基づく共同研究、人材交流等の実施、平成29年度全国発明表彰「21世紀発明奨励賞」を受賞するなど、産学連携事業「センター・オブ・イノベーション（COI）」の研究成果を上げている。さらに、大学の研究成果や人的資源等を活用して起業されたベンチャー企業に対して「東京芸術大学発ベンチャー」の称号を授与し、研究成果の社会還元を促進する制度を創設している。

○ 東京芸術大学AMS（Arts Meet Science）プロジェクトの開始

「芸術」と「科学」を融合し、新たな価値を発見・創造することを目的に、学長直属の戦略的取組として、「東京芸術大学AMS（Arts Meet Science）プロジェクト」を開始している。Springer Natureとコラボレーションしたディスカッション・シンポジウムでは、科学、医療、音楽等の専門分野における研究者等により、芸術と他分野との学問的融合への将来的な可能性について議論が行われるなど、多様なアプローチ展開の発信に取り組んでいる。

○ 大学独自の教育プログラムの提供

「アート×福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトとして、履修証明制度を活用した「Diversity on the Arts Project」（愛称：DOORプロジェクト）を実施しており、40名の社会人受講生に対して履修証明書を交付している。